

# Doxology

ドクソロジー

## 知っておきたいキリスト教のことば (100) 頌栄 しょうえい

昔、牧師になる前のことですが、聖公会のある教会の「夕の礼拝」に出席したことがありました。礼拝の途中で詩編の交唱がおこなわれたのですが、決められた節が終わって祈禱書を閉じようとしたとたん、周りの声が止まらないのに驚いたことがあります。

他の人たちは、声をそろえてこのように唱えていました。

栄光は、父と子と聖霊に 初めのように今も、世々に限りなくあ  
ああああああああああああああああああああアメン

この神さまに栄光を帰す祈りを「頌栄」と呼びます。(聖公会では「栄唱」ともいいます)。旧約聖書の中では、詩編に見ることができます。41:14、72:18~19、89:53、106:48 にそれぞれありますが、詩編を5部に分けるために、後代にこの頌栄を付加したのではないかとされています。

新約聖書の中では、特に手紙に見ることができます。

栄光が神に永遠にありますように、アメン。(ローマ11:36)

教会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々限りなくありますように、アメン。(エフェソ3:21)

永遠の王、不滅で目に見えない唯一の神に、誉れと栄光が世々限りなくありますように、アメン。(一テモテ1:17)

このように「神に」、「栄光が」、「永遠に」という3つの要素から、頌栄は成り立っています。したがって、主の祈りの最後に付け加える次の祈りも、ある種の頌栄と呼ぶことができます。

国と力と栄光は、永遠にあなたのものです。アメン

神さまの栄光をたたえるこの祈りを、大切にしていましょ。

次回は「象徴」です。お楽しみに。



「The Holy Trinity」

Artus Wolffort

(1581~1641年)

栄光が世々限りなくキリストにありますように、アメン。

(ヘブライ人への手紙13章21節b)

